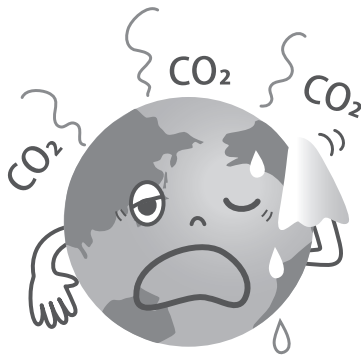




「旭市地球温暖化対策推進実行計画」の進捗状況を公表

温室効果ガス排出量状況

施設	削減目標	排出量(kg-CO ₂)				平成23年度 削減率 (基準年度からの増減)
		平成18年度 (基準年度)	平成24年度 (削減目標)	平成22年度	平成23年度	
本庁など	7.0%	9,152,893	8,512,190	9,134,526	8,148,974	-10.97%
旭中央病院	2.5%	16,869,932	16,448,184	16,160,083	19,988,470	18.49%
全体	-	26,022,825	24,960,374	25,294,609	28,137,444	8.13%



市では、市役所や旭中央病院の事務および事業に関し、温室効果ガスの排出などの削減を行うことで、地球温暖化対策の推進を図る、旭市地球温暖化対策推進実行計画を策定しています。この計画では、平成18年度を基準年度として削減目標などを定め、平成20年度から24年度までの5年間で目標達成を図ります。その進捗状況ですが、昨年度は基準年度と比べて、8・13%増加しました。

本庁などの状況
基準年度と比べ10・97%減少し、目標を達成しました。

排出要因の内訳ごとの増減ですが、自動車走行量が基準年度と比べ50%増加しています。これは、新たなサービスの展開や、各支所にあった室の統廃合によ

る現場への移動距離の増加などが必要に挙げられます。

また前年度と比べても5・97%増加し、東日本大震災の対応で、自動車の利用が増えたことも要因に挙げられます。

一方、電気と灯油・A重油の使用量が大きく減少しています。これは東日本大震災による施設の利用制限や、節電に取り組んだ結果と考えられます。特に温室効果ガス排出要因の大半を占める電気使用量が、基準年度と比べ12・05%減少、前年度と比べても12・81%減少し、大幅な削減となりました。

旭中央病院の状況
基準年度と比べ18・49%増加

ダイオキシン類調査の測定結果

近年、ダイオキシン類による環境に対する影響への関心の高まりから、市では毎年環境中のダイオキシン類(コプラナーPCBを含む)の濃度を把握するため、大気、水質および土壌の調査を実施しています。平成23年度の測定結果は表のとおりで、いずれの調査においても環境基準を下回りました。

本年度も同じ地点で調査を行う予定です。なお県においても水質の調査(干潟大橋・駒込堰)を行う予定です。

平成23年度ダイオキシン類環境調査測定結果

調査項目	調査地点	調査日	調査結果	年平均値	基準値	単位
大気	浄化センター	平成23年7月22日 ～29日	0.014	0.037	0.6	pg-TEQ/m ³
		平成24年1月25日 ～2月 1日	0.059			
	飯岡支所	平成23年7月22日 ～29日	0.019	0.028		
		平成24年1月25日 ～2月 1日	0.036			
水質	新川(干潟大橋)	平成23年9月20日	0.78		1.0	pg-TEQ/ℓ
土壌	中央児童公園	平成24年1月26日	1.3		1,000	pg-TEQ/g

※pg-TEQ(ピコグラム-TEQ): ピコグラムとは1兆分の1グラムのことです。

しています。これは、新本館の稼動とともに、A重油から都市ガスへの燃料の切り替えがあったことが要因に挙げられます。

今後の取り組み

全体では基準年度と比べて8・13%増加していますが、温室効果ガス排出要因の大半を占める電気の使用について、より一層の節電を心掛け、温室効果

ガス排出の抑制を図ります。またごみの焼却による温室効果ガスの排出量も年々減少しています。ごみの分別・減量の意識向上を図ることで、地球温暖化対策につなげます。

問い合わせ先
環境課環境政策班

☎ 62・5328